

USオープン観戦記

in ペブルビーチゴルフリンクス

宇部72カントリークラブ 統括グリーンキーパー 伊藤 隆弘

2019年の全米オープン はペブルビーチゴルフリンクス

6月14日金曜日、USオープンの予選ラウンド2日目を観戦するために我々一行は、早朝4時半にサンフランシスコの宿を出発し一路モントレー半島に向かった。車窓から壮大なアメリカの風景を眺めながら、憧れのペブルビーチと十数年振りに見るタイガー・ウッズのことに思いをめぐらせていると、あつと云う間に2時間が経ちギャラリー駐車場に着いた。USオープンの観戦は2回目だが、その規模の大きさには今回も驚かされた。毎日数万人のギャラリーが観戦に訪れるが、ほとんどがマイカー利用なので必然的に数万台分の駐車場が必要となるし、ピストン輸送する大型バスへ乗り込む前の手荷物チェック個所と乗車スペースも必要となる。広大な駐車場に次々と車が納まっていく光景は圧巻であった。

駐車場からバスに揺られる事20分、ついにペブルビーチゴルフリンクスに到着した。2日目のタイガー・ウッズの組のスタート時間はインの8時40分。バスを降りて

コースに入るとそこは1番TEE。ゴーイングアウト・カミングインのレイアウトで造られているペブルビーチの10番TEEまでにはまだ2キロも歩かないといけない。しかも大半のギャラリーがタイガー・ウッズ目当てで10番TEEに向かっているので歩径路は大混雑。早々に10番TEEに行くのは諦めて、ギャラリーの少ないホールでフェアウェイの横断道からコースの状態を写真に納めたり、日本のコースでは見たことのないセットティングを目に焼きつけた。13番ホールでようやくタイガー・ウッズの組を見ることができたが、ジョーダン・スピースとジャスティン・ローズの人気者2人とのペアリングで大勢のギャラリーに囲まれ、しかも大きな人がスマホをかざしているのだから前が見えない。PGAツアーでは昨年からは本選での撮影も可能となったので、背の低い人はよけい観戦しづらくなった。タイガー・ウッズの組の観戦は14番ホールまでとし、また1番ホールに戻り18番まで全ホールを歩いた。ペブルビーチは4番ホールから10番ホールのコース右側が海岸なので、左側にギャラリー

ペブルビーチリンクス



ペブルビーチ17番ホール



ペブルビーチ18番ホール



ペブルビーチ8番ホール



ペブルビーチ9番ホール



ギャラリー入口



ペブルビーチ1番ホールグリーン右サイドのバンカー

ここ数年USGAのコースセッティングに選手からクレームが出ているが、今年のセッティングは素人目ではあるがフェアな感じであったと思う。フェアウェイは適度な広さで、グリーンコンパクションも硬すぎず、ロングアイアンでも止まっていた。ペブルビーチは毎年PGAツアーを開催しているのテレビでよく観ていたが、訪れてみてそのグリーンの小ささに驚いた。5番ホールは200ヤード弱のパール3だが、グリーンの大きさは200m強位にしか見えなかった。平均で300m強位か。

ーが集中し観戦には困難が伴った。歩きながら考えたのはコースが開場した100年前の事。よくこんな絶妙なコースレイアウトを無名のアマチュアが設計できたなあと、ただただ感嘆しながら歩を進めた。また途中で気付いたのはコースの隅々まで散水システムが行き届いていること。おそらく1000個は超えているであろうスプリンクラーはすべてレインバード製だった。最新のシステムが設置してあると聞いていたので、コース管理棟を見学したが今回は叶わなかった。



ペブルビーチ13番ホール



ペブルビーチのクラブハウス



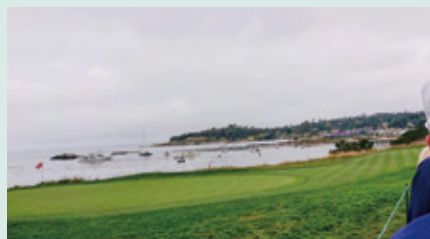
ペブルビーチのラフ



ペブルビーチ7番のTee



ペブルビーチのFw



ペブルビーチ5番ホール



ペブルビーチ、カート道の距離表示



ペブルビーチの広大なホスピタリティーテント

グリーンはポアアニューアだが、見た目はベントと見間違えう綺麗に仕上がっていた。バンカー周りの長いトルフェスクがUSオープンらしさを感じさせた。今回コース管理のボランティアに来ていた福岡・芥屋ゴルフ倶楽部のグリーンキーパー、アンドリュース・マクダウエル氏に現地であうことができ、少し話すことができた。アンドリュース氏によるとコース管理の人員は35人位で、ボランティアには全世界から120人ほどが集まっているそう。芝の品種はグリーンは先ほど書いたポアアニューア、フェアウェイとラフはライグラス、ヘビラフはトルフェスク、海岸側にはファインフェスクやバミューダグラス、キクユグラスなど様々は芝種が混在しているそう。今回のUSオープンが今まで見た中で一番綺麗なペブルビーチと言っていた。彼のことだからボランティア期間の1週間で様々なことを吸収し、芥屋ゴルフ倶楽部がより良いコースになることだろう。

日本人は4人参戦していたが、予選通過は松山選手のみ。日ごろ易しいセッティングでプレーして

ペブルビーチリンクス



ペブルビーチでアンドリュース氏と



ペブルビーチ2番ホール、グリーン前のバンカー



ティシヨットが入るように削られたバンカー



ラフのスプリンクラー



ペブルビーチのバンカー周り



タイガーマニア

「ハーフムーンベイリンクス」、**「タスティン・ランチGC」**も訪問

このままでは日本人選手は世界にますます置いていかれるだろう。多いからグリーン周りが易しい。日本にはモンスターコースがほとんどないし、2グリーンコースも多いからグリーン周りが易しい。このままでは日本人選手は世界にますます置いていかれるだろう。

USオープン観戦の前日、サンフランシスコの海岸沿いに在る「ハーフムーンベイゴルフリンクス」の36ホールをプレーした。午前中にラウンドしたオーシャンコースは1997年オープン。設計者はアーサー・ヒルズ。すべてのホールから太平洋を見渡せ、ティ周りやコース間をセパレートするネイティブエリアはゴルフ発祥の地、スコットランドを彷彿させた。ネイティブエリアに何回か打ち込んだが、ボールは見えているのに



ハーフムーンベイオーシャンコース



ハーフムーンベイオーシャンコース18番ホール



バグパイプ奏者

ハーフムーン ベイゴルフコース



ハーフムーンバイオールドコース

脱出は容易ではない。ネイティブエリアに先住者があり注意必要（ヘビ）。午後にプレーしたオールドコースは1973年オープン。設計者はアーノルド・パーマーとフランシス・デュアン。高級住宅街に囲まれたパークランドコース。すべてベント芝で造成されたコースは、日本芝と違いボールが沈み気味となり難易度が高い。特にグリーン周りのアプローチに手を焼いた。18番ティからの景色は右サイドに海岸線、グリーン奥にジョージ王朝様式を偲ばせるリッツカールトンホテルがあり絶景。ホールアウトしたのは午後8時15分だったが、ホテル前でバグパイプ奏者が哀しげな音色を奏でており、よりスコットランドを連想させた。

渡米した翌日にロサンゼルス「タスティン・ランチゴルフクラブ」でもプレーしたが、ここもベントグリーンで面積もそんなに大きくない。日中は暑くても夜温が低いのでベントでも維持できるのである。芝密度があり軟らかめのグリーンで、ボールマークはしつかりついた。病害はオーシャンコースに一箇所炭疽病らしき物を見ただけだったが、カタピラ（ポ



タスティンランチGCのグリーン



ロサンゼルス・タスティンランチGC

タスティン
ランチGC



タスティンランチのりす



タスティンランチの表示板

アアニア(？)は3コースのグリーンともかなり侵入していた。日本のコースとの違いが色々目についた。まずはゴルフバッグの積み込み。自分達でバッグを下ろしカートに積み込む。帰りも同様。着替えはあらかじめ済ませており、ゴルフシューズも車から降りる時に履き替えるのでロッカーは必要なし。よってクラブハウスもコンパクトな造り。次にプレレフィの支払いはプレー前に受付で済ませます。プロショップ、ピバレットジカート、レストランはすべて現地払い。ロサンゼルス・タスティン・ランチゴルフクラブ(タスティン・ランチゴルフクラブ)ではプレースタイルが乗用カート、手引きカート、担ぎと様々だった。一人でプレーしているジュニアプレーヤーもいた。

従業員はフランクな人が多くよく話しかけられた。プレーヤーにも話しかけられ、お互い写真を取り合った。

英語がまるで話せない自分が、同行者の手厚いサポートに支えられ5泊7日の旅を無事終えられることができた。このような機会を与えてくださった某業者の方々に感謝申し上げます。